

問1 19世紀、イギリスは自国の綿織物をインドへ、インドで作らせたアヘンを清へ輸出させる「三角貿易」の仕組みを築きました。この貿易構造が当時の清にもたらした経済的な影響として最も適切な説明を選びなさい。（2026年 高知公立入試 類似）

1. アヘンの輸入代金として、清国内の銀が国外へ大量に流出した
2. イギリスへの茶の輸出が急増したことで、清国内に大量の銀が流入した
3. インドから安価な綿織物が流入したことで、清の国内綿産業が飛躍的に発展した
4. イギリスから最新の工業製品が直接持ち込まれ、清の産業の近代化が急速に進んだ

問2 開国後の日本において、国内の物価が急騰し、民衆の生活が苦しくなった理由を説明した文として、適切な語句の組み合わせを選びなさい。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 金銀比価の差による金貨の流出と、生糸などの輸出による国内での品不足。
2. 欧米からの機械類の輸入増加と、金貨の国内流入による通貨価値の下落。
3. 綿織物の輸出による国内生産の停滞と、幕府による金貨の回収。
4. 関税自主権がないことによる輸入制限と、銀貨の大量流出。

問3 19世紀後半、日本の美術が西洋の芸術家に大きな影響を与え、日本文化への関心が急速に高まった現象を「ジャポニスム」と呼ぶ。この現象において、ゴッホやモネといった西洋の画家に多大な影響を与えた、日本の浮世絵師の名前として適切なものはどれか。（2026年 群馬公立入試 類似）

1. 葛飾北斎
2. 横山大観
3. 雪舟
4. 歌川広重（安藤広重）ではなく、明治以降に活躍した人物

問4 1853年にペリーが日本に来航し開国を求めた背景には、当時のアメリカ合衆国におけるどのような社会状況の変化がありましたか。その理由として正しい説明を選びなさい。（2021年 鳥根公立入試 類似）

1. 領土を太平洋沿岸まで拡大させたことで、アジアとの貿易路を確保する必要が生じたため
2. イギリスとの産業競争に勝ち、世界最大の工業国「世界の工場」として君臨したため
3. ロシアによるシベリア進出を阻止するため、東アジア諸国と軍事同盟を結ぼうとしたため
4. 国内の人口増加を解消するため、東アジアを新たな移住先となる植民地にする必要があったため

問5 19世紀半ば、水戸藩の徳川斉昭が「弘道館」を設立した当時の社会背景と、同時期に活動した人物の動向について述べた文として正しいものを選択肢から選びなさい。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 外国船の来航など対外的な緊張が高まる中、人材育成が急務となり、吉田松陰らが尊王攘夷の思想を広めた。
2. 元禄文化が栄え、近松門左衛門や井原西鶴といった人物が町人の生活を題材にした作品を残した。
3. 鉄砲の伝来により戦国大名の戦い方が変化し、織田信長が天下統一に向けて教育機関を整備した。
4. 墾田永年私財法によって土地の私有が認められたため、有力な貴族が各地に私塾を開いた。

問6 日米修好通商条約に含まれる「関税自主権の欠如」が、当時の日本に与えた影響やその仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

1. 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった
2. 外国政府が日本の輸出額を自由に管理できるようになり、日本国内の物資が極端に不足する事態を招いた
3. 日本に入港するすべての外国船から徴収する税金をアメリカに支払う義務が生じ、国家財政が破綻した
4. 日本国内で流通する貨幣の発行権を外国に譲り渡すことになり、幕府が経済政策を主導できなくなった

問7 1842年に江戸幕府が出した方針に関する記述として、正しいものを次の選択肢から選びなさい。この方針は、隣国の清がイギリスとの戦争に敗れた情報を得た幕府が、それまでの武力行使による対外政策を転換するために出したものです。（2015年 山口公立入試 類似）

1. 日本近海に現れた外国船に対し、燃料である薪や水などを与えて穏やかに退去を命じる法令
2. 海岸に近づく外国船を、事情を問わず見つけ次第砲撃して追い払うよう命じる法令
3. ロシアの南下に備えて、最上徳内や近藤重蔵らに樺太などの北方領土を調査させる方針
4. 長崎・下田・函館などの港を開き、アメリカなどの諸外国と自由貿易を認める方針

問8 幕末の動乱から明治維新へ至る過程を記した年表において、大老の井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」の後に発生し、薩摩藩が攘夷の困難さを認識してイギリスへの接近を図るきっかけとなった出来事は何ですか。（2019年 愛媛公立入試 類似）

1. 薩英戦争
2. 薩長同盟
3. 鳥羽・伏見の戦い
4. 版籍奉還

答え合わせ・解説

問1	答え 1 アヘンの輸入代金として、清国内の銀が 国外へ大量に流出した	18世紀までのイギリスは、清から茶を大量に輸入する一方で、清へ売るものがないため大幅な貿易赤字となり、代金として多額の銀が清へ流出していました。この状況を打開するため、イギリスは植民地であるインドでアヘンを栽培させ、それを清へ密輸して代わりに銀を回収する仕組み（三角貿易）を構築しました。その結果、清では銀が不足して地価や税負担が上昇し、経済が混乱するとともにアヘン中毒者の増大が深刻な社会問題となりました。
問2	答え 1 金銀比價の差による金貨の流出と、生糸 などの輸出による国内での品不足。	開国後の物価上昇（インフレーション）の主な要因は、通貨問題と需給バランスの崩壊にあります。日本と海外での金銀交換比率の差を突かれ、質の良い日本の金貨が大量に国外へ流出したことで貨幣価値が混乱しました。また、生糸や茶が主要な輸出品として大量に海外へ送られた結果、国内向けの供給が追いつかなくなり、価格が跳ね上がることとなりました。
問3	答え 1 葛飾北斎	19世紀のヨーロッパでは、万国博覧会などを通じて日本の浮世絵が紹介され、大胆な構図や色彩が西洋の画家に衝撃を与えました。特に葛飾北斎の作品は高く評価され、印象派の画家たちの作風に強く反映されました。横山大観は明治時代から昭和にかけて活躍した日本画家であり、この時期のジャポニスムの源流とは異なります。
問4	答え 1 領土を太平洋沿岸まで拡大させたこと で、アジアとの貿易路を確保する必要が 生じたため	アメリカは1840年代にカリフォルニアなどを獲得して太平洋に到達しました。これにより、巨大な市場である中国や東アジアとの貿易を、太平洋を横断して行うことが現実的になりました。その航路の途中に位置する日本は、燃料や食料の補給拠点として、また遭難船の保護場所として極めて重要な存在となったため、強力な外交交渉（砲艦外交）を展開しました。
問5	答え 1 外国船の来航など対外的な緊張が高まる 中、人材育成が急務となり、吉田松陰ら が尊王攘夷の思想を広めた。	19世紀半ばは、欧米列強の接近により幕府の権威が揺らぎ、対外的な危機感から藩校での教育が重視された時期です。徳川齊昭は水戸学を背景に弘道館を設立し、同時期に吉田松陰もまた天皇を尊び外国を退ける「尊王攘夷」の思想を説いて、動乱の幕末期における精神的な支柱となりました。
問6	答え 1 自国の判断で輸入品に高い税率をかける ことができず、安価な外国製品の流入か ら国内産業を守ることが難しくなった	関税自主権がない状態とは、輸入品にかかる税率（関税）を相手国との協議で決めなければならない、あるいは相手国の意向に従わなければならない状況を指します。これにより、イギリスやアメリカから安価な綿製品などが大量に流入した際、高い関税をかけて防ぐことができず、日本の伝統的な手工業が大きな打撃を受ける要因となりました。
問7	答え 1 日本近海に現れた外国船に対し、燃料で ある薪や水などを与えて穏やかに退去を 命じる法令	江戸幕府は、1840年から始まったアヘン戦争において、大国である清がイギリスに敗北したことを知り、強い衝撃を受けました。それまでは1825年に出された異国船打払令に基づき、外国船を武力で追い払う強硬な姿勢をとっていましたが、同様の衝突を避けるために方針を緩和し、天保の薪水給与令を出して燃料や水の提供を行うこととしました。
問8	答え 1 薩英戦争	1860年の桜田門外の変で幕府の権威が失墜した後、1863年に薩摩藩とイギリスの間で薩英戦争が起こりました。この戦いを通じて薩摩藩は、武力で外国を追い払う「攘夷」の不可能性を悟り、急速に西洋の技術導入と軍備の近代化へ舵を切ることとなりました。これが後の倒幕運動の重要な転換点となります。